

文字を使わない情報の探し方を考えてみよう

目標

探したい情報がぼんやりしている時、検索システムに自分の思いを伝えることができず困った経験はありませんか？人が文字を入力せず、直感的に情報を探ることができる検索システムのデザインを目指します。検索中に困った場面をもとに、検索システムが、どのようなデータを持てばよいか、どのような探し方を提供したらよいかについて、実際に検索システムを作りながら、考えてみましょう。

学べること

- ・ 検索システムの基礎知識
- ・ 問題の発見と解決のプロセス
- ・ データベースの作成方法
- ・ 検索インターフェースのデザイン方法

実施日・内容

※具体的な日程は相談の上、決定します

第1回（4時間程度）

- ・ 検索システムの基礎を学ぶ
- ・ 体験アプリで植物を探す
- ・ 自身が作成したい検索システムを相談し決定する

※次回までに検索対象データを収集する

第2回（4時間程度）

- ・ データベースを作成する
- ・ 体験アプリと同じ検索方法で検索システムを作成する

第3回（4時間程度）

- ・ 作成した検索システムの問題点と改良点を考える
- ・ 発表資料を作成する

担当教員

知能工学専攻 梶山朋子



体験アプリ：リング図鑑<植物>

花の色や季節、葉の形やつき方など、検索の切り口を表すリングを組み合わせることで、植物を探します。時計の6時の位置が検索条件を表すため、リングを回転することにより、検索条件を変更できます。この図では、花の色が「黄色」で、葉の形が「細長い」植物を探しています。あなたは、この検索方法に、どのようなデータや検索の切り口を用意して、何を探しますか？

